

平成24年度 第1回入船地区学校統合懇談会

1 日 時 平成24年 7月13日(金) 10時00分～12時00分

2 会 場 文化会館第一会議室

3 次 第

(1) 開会の言葉

(2) 教育委員会挨拶

(3) 学校統合アドバイザー挨拶

(4) 委員自己紹介

(5) 会長・副会長の選出

(6) 説 明

■ 学校統合の概要及び今後の進め方について

■ 跡地利用について

■ 情報の発信について

■ 説明会について

(7) 質疑応答、意見交換

(8) お礼の言葉

(9) 閉会の言葉

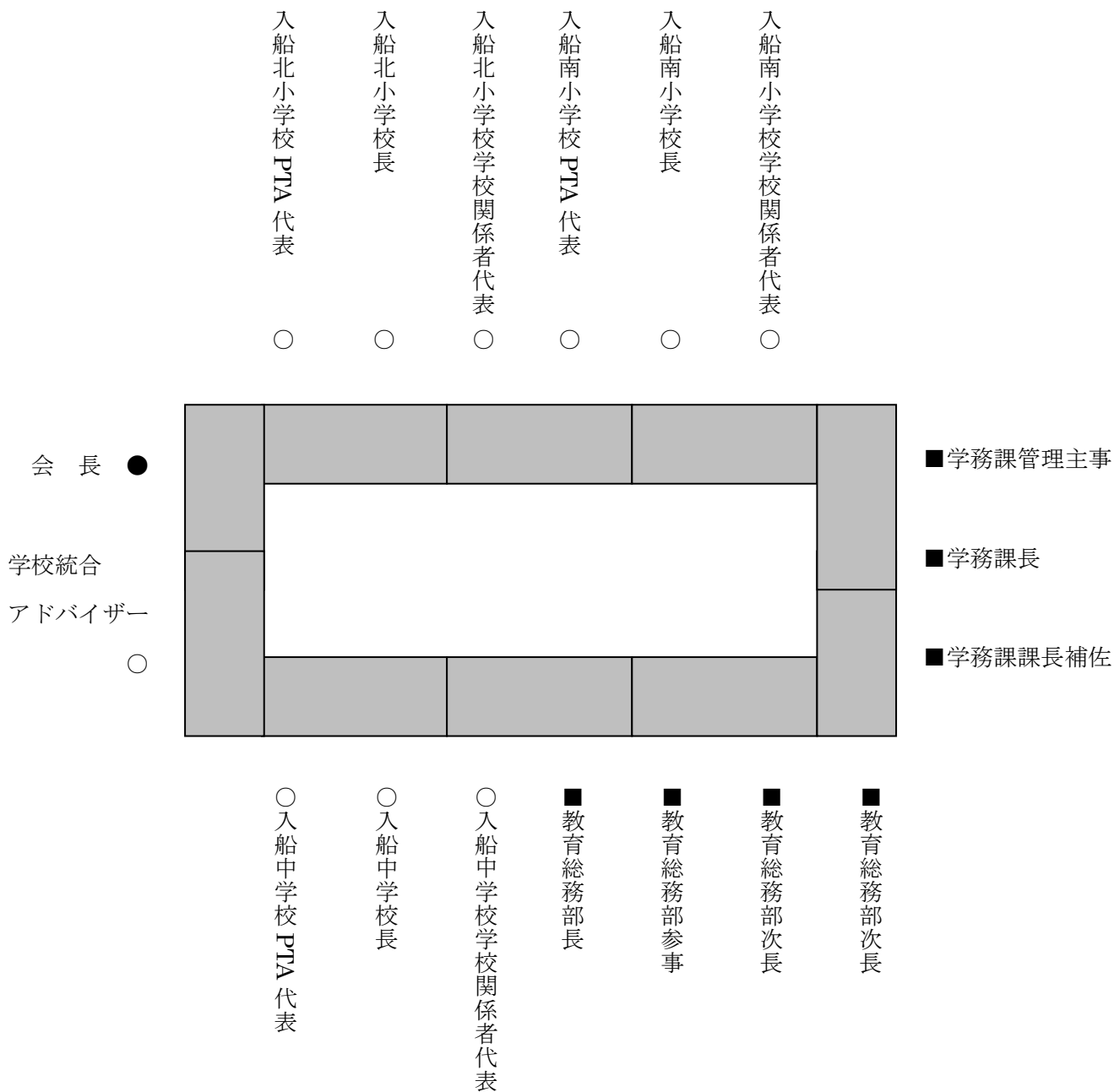
(10) 次回の予定

平成24年度入船地区学校統合懇談会

◇ 委 員

	役職等	氏名（敬称略）	
学識経験者代表	玉川大学教職大学院教授	小松 郁夫	学校統合アド バイザー
学校関係者代表	入船北小学校 PTA 役員代表 (入船北小学校 PTA 会長)	新田 裕子	
	入船北小学校学校関係者代表 (入船北小学校学校評議員)	吉岡 幸一	
	入船南小学校 PTA 役員代表 (入船南小学校 PTA 会長)	師岡 真由美	
	入船南小学校学校関係者代表 (入船南小学校学校支援コーディネーター)	設楽 友香	
	入船中学校 PTA 役員代表 (入船中学校 PTA 副会長)	中村 智子	
	入船中学校学校関係者代表 (入船中学校学校評議員)	坂上 ますみ	
学校代表	入船北小学校校長	米山 泉	
	入船南小学校校長	鞠山 誠人	
	入船中学校校長	緒方 利昭	
行政代表	教育総務部長	長野 延雄	
	教育総務部参事	大野 宏尚	
	教育総務部次長（教育総務課長）	角田 義弘	
	教育総務部次長（教育政策課長）	山高 智美	
事務局	学務課長	佐藤 伸彦	説明
	学務課課長補佐	桂林 良哉	進行・説明
	学務課管理主事	鈴木 明美	記録

座席表



入船地区学校統合計画について

<経緯>

- ◇平成13年度 第1次学校適正配置等検討委員会にて、学校種別の望ましい学校規模について、及び適正配置の方法について、さらに学校選択制の導入について等の検討を行った。

- ◇平成20年度 第2次学校適正配置等検討委員会にて、学校配置に関する基本的な考え方等について検討し、平成21年3月に「浦安市における学校の適正配置についての基本方針（以下“基本方針”）」を策定した。

- ◇平成21年度 第2次学校適正配置等推進検討委員会にて、基本方針をどのように具体化していくかを協議した。

- ◇平成22年度 中町地区（入船地区）学校適正配置懇談会にて、入船地区小中学校のPTA代表、学校評議員代表、自治会代表、学校長等に学校適正配置事業の概要を説明し意見をいただいた。
平成23年3月に市長が入船地区学校統合について施政方針演説で取り上げ、新聞等でも報道された。また、入船地区の保護者や自治会代表、学校関係者へ文書にてお知らせした。

- ◇平成23年度 入船地区学校統合準備委員会を立ち上げ、具体的な検討に入る予定であったが、東日本大震災の影響により、第9中学校開校が1年延期になったため、本計画も1年延期となった。
教育委員会内にて、学校統合検討部会会議を開き、来年度以降の検討・協議の進め方を決めた。
7月に延期通知を、2月に計画の今後の進め方についての通知を配付した。
9月に入船地区、今川一・二丁目在住の新1年生保護者あて、計画の通知を配付した。

- ◇平成24年度 教育委員会内に入船地区学校統合準備委員会（以下“準備委員会”）を設置し、5月9日（水）の第1回準備委員会にて組織や今後の進め方、検討課題やスケジュールについて原案を協議した。
7月13日（金）に入船地区学校統合懇談会（以下“懇談会”）を開催し、準備委員会で検討・協議した内容等を説明し意見を伺った。

入船地区学校統合の今後の進め方について

＜学校統合の目的＞

入船地区学校統合は、学校適正配置推進事業における小規模校対策として行います。

＜学校統合の目標＞

入船地区学校統合は、中学校との併設を生かした魅力ある学校づくりを行います。

＜学校統合により期待される効果＞

《小規模校対策により期待される効果》

- 統合によって児童数及び学級数が増えることにより、同学年の子どもたちの交流が活発になり、他クラスとの切磋琢磨により集団学習のよさや効果が期待できます。
- 学校行事などの諸活動において、子供たちがより多様な経験をすることができます。
- 授業中等で多様な意見が出ることによって、考えの深化や多角化が期待できます。
- クラス替えが可能になり、多様な人間関係に接する機会を得ることができます。
- 子どもたちを多くの教員の目で見ることにより、客観的な評価をすることができます。

《中学校との併設を生かした魅力ある学校づくりにより期待される効果》

- 小学生と中学生の交流の機会が増すことにより、あこがれや尊敬の念、あるいは思いやりの心を育てることができます。
- 小学生にとって、中学校をより身近に感ずることによって中学進学への不安を取り除くことができます。
- 中学生にとって、下級生との交流が増すことによってリーダーシップの育成や異年齢交流等の体験が期待できます。
- 小学校高学年の授業の一部を中学校の教員が指導することにより、専門性が高く児童にとって魅力ある授業を展開することができます。
- 教科の教室を設置することにより、学習への積極性や集中力を高めることができます。さらに学習機材や視聴覚機材を充実させることにより、学習の深化や多角化が期待できます。

＜今後の検討の方向性＞

- 1 入船地区学校統合は、入船北小学校と入船南小学校を統合し新たな小学校としてスタートするという考えを基本としています。
- 2 学校統合後の小学校の児童が、既存の入船南小学校及び入船中学校の校舎を利用することができるようにします。
- 3 小中学校間での連携を重視した小中連携・一貫教育を推進します。

入船地区学校統合に関する検討課題

<平成24年度に検討する事項>

項 目	内 容	予算計上および工事
①施設に関すること	入船南小校舎と入船中校舎をつなぐための施設を設置すること	25年度予算に計上 26年度工事
②学校運営に関すること	小学校の名称について	
③通学区域と特例措置に関すること	統合前の学区外通学に関する特例について	
④PTA 組織、地域との連携に関すること	PTA 組織の再編等について	
⑤人的配置に関すること	非常勤職員を配置すること	27年度予算に計上
⑥保護者等への説明内容と方法に関すること		

<平成25年度に検討する事項>

項 目	内 容	予算計上および工事
①施設に関すること	小学校に特別支援学級を設置すること	26年度予算に計上 26年度工事
	余裕教室の有効活用に関すること	26年度予算に計上 26年度工事
②通学路の安全対策に関すること	交通整理員を配置すること	27年度予算に計上
③教育課程に関すること	生活規律に小中間の系統性を持たせること	
	諸活動、諸行事において小中の連携を図ること	
④移転および跡地利用等に関すること	入船北小学校の跡地利用について（全庁的に検討）	

<平成26年度に検討する事項>

項 目	内 容	予算計上および工事
①学校運営に関すること	校章、校旗、校歌について	27年度予算に計上
	体操服等について	

<平成27年度> 4月開校